

(座長：伊佐山康郎) これから以上三つの演題について、ご討論をお願いしたい。

(質問：日獣大・高橋勇) (杉本氏へ) 昨日の学会でも論議があったが、*H. equigenitalis* 以下(*H. e.*と略)は分類学上からは*Haemophilus*より*Moraxella*に近いということであった。もしこの両菌の薬剤感受性の比較データ(文献でも可)があったら教えていただきたい。

(答) *Moraxella*の薬剤感受性はしらべていない。

(質問：群馬県・金井久) いずれの演者でもよいが、馬の生殖器官内正常細菌叢についてご教示いただきたい。

(答：国安主税) 私も十分にわかってはいないが、*Neisseria*, *Pseudomonas*, *Klebsiella*などいろいろのものがでており、複雑である。

(座長：伊佐山康郎) 橋本先生に関連としてこの点についてお聞かせ願いたい。

(発言：家衛試・橋本和典) 私も若干例の経験のみで、詳しく定量的にしらべていないが、概要をいうと、菌種としては国安氏があげたほかに、*Streptococcus*がかなり多く、さまざまである。また*Mycoplasma*もでる。したがって、フロラをみるためには、種々の培地でしらべる必要がある。

(質問：金井久) いまの話で、*Streptococcus*や*Pseudomonas*は混合感染しているということなのか、コンタミか、ご意見をききたい。

(答：宇野駿) 子宮内の正常細菌叢は大体12種類ぐらい検出される。*Pseudomonas*や β 溶血の*Streptococcus*がでるが、それらが病原性をもっているかどうかについては、検討が及んでいないので今のところ、わからない。したがって混合感染といえるか、正常細菌叢とし

て存在するのかわからない。

(発言：国安主税) それに関連して、私のところで5頭使って感染実験をやっているのですが、担当者に説明してもらうことにする。

(発言：家衛試北海道・江口正志) 当支場で、*H. e.*感染実験(5頭)を実施した。そのうち1頭だけは、*H. e.*が分離されなくなった後に、 β 溶血の*Streptococcus*が純粹に分離されるようになった。私どもは臨床の方はあまり分らないが、その時の症状はCEMと非常によく似たものであった。ただし実際に野外でCEMから菌を分離するときには、SMが入った培地を用いるが、この菌はそういう培地では分離されていない。

(質問：橋本和典) 化学療法のことでなく、病気(CEM)のことで伺いたい。牡馬の場合に、感染とみるのか、保菌とみるのか?また精液中にどれくらい菌がでるのか?雄の尿道窩には菌がどのあたりまで入っているのか?以上3点を教えてほしい。

(答：宇野駿) 精液中に菌がどれくらいいるのかは、しらべられなかった。種馬では全身的な症状は全くないし、保菌しているのか、感染しているのかわからない。種付時期の前に雄馬を検査すると、400頭検査して10頭ぐらいは陽性の馬がでてくる。それは前年に感染をうけて、現在保菌しているのだという方が正しいのではないかと思う。しかし保菌していない馬でも陽性の雌馬に交配すれば、感染をうけると思う。菌のとれる場所は尿道内か尿道窩で、後者には菌が長く生存しているといわれ、前者からより後者からのスワブの方が(菌の検出が)よいといわれている。なお一番よいのは、射精前液を採取するとよいといわれるが、それも実際上無理なので、いまのところ尿道窩でしらべている。

(質問：佐藤静夫) 国安氏の話の中で治療をくりかえしても、後で菌が分離されるとのことであったが、菌がR型になっているとか、あるいはその菌が(薬剤に)耐性となっているのか、伺いたい。

(答：国安主税) ご質問の意味は1, 2, 3回目と分離菌の薬剤感受性に差があるかどうか、治療の前と後に分離した菌とでは差があるかどうか、という意味だと思うが、菌はとってあるが、そこまでまだ手が及んでない。

(質問：佐藤静夫) 現在、野外では、主にPC系薬剤が使われているようだが、いろいろの薬が有効なので、耐性の心配はないと思うがその点どうか。

(答：宇野駿) いわれる通りだと思う。GMは使わないよう指導しているが、一般に使いなれたPC, SM, KMなどが使われている。

(質問：佐藤静夫) (杉本氏へ)抄録中に、SM感受性株の検索も必要であろう、とあったが、その意味は？

(答：杉本千尋) わが国では、まだ報告がないが、国外では実際に感受性株も分離されており、そういう株も病原性があることがわかっている。今後選択培地の組成なども考えなければならぬだろう。

(質問：佐藤静夫) (野外分離菌がSMに)耐性だということは、SM加培地で菌を分離しているのが、大きな理由だと考えているのか？

(答：杉本千尋) 通常薬剤無添加培地も併用しているが、雑菌汚染が強いため、LMを加えた選択培地を考えている。

(意見：佐藤静夫) 初期に*Mycobasma* が分離されたときにSM耐性株があったが、これは、本菌が分離された組織培養液にSMが加えられていたので、SMで選択されたために分離株がSM耐性であったという例もある。*H. e.*の場合も同様のことがいえそうに思う。

(座長：伊佐山康郎) 今の問題について、解釈によっては重大な問題であり、もし雑菌の汚染なしで(SMが培地を用いないでも)*H. e.* が分離できるならば、本当はもっと菌があったのではないかという意味だと思う。私の聞いたところでは、CEMの最盛期の材料であれば、薬剤無添加が培地でも、ほぼ純粹に菌がとれるが、現地では子宮洗浄とか、薬剤投与などの処置により、最初の菌がそのままの状態でのではなく、陰核や内部からでてきたものを丹念に検索しているわけである。この面はいろいろと検索されているようで、いずれ明確化されると思う。

(質問：広島大・村田昌芳) *P. multocida* の場合、PC感受性が菌の同定上の一つの参考項目となっているが、*H. e.* の場合、同定上参考とする項目の一つにPC感受性も考えているのか？耐性の問題もあろうが、当面この点は同定の条件としていゝのか伺いたい。

(答：杉本千尋) *Moraxella* のミニマムスタンダードの中にはPC感受性が入っている。

(発言：村田昌芳) つまりいまのところ、*H. e.* の同定条件の一つにPC感受性も加えてよいということか？

(答：杉本千尋) そう思っている。

(質問：金井久) (杉本氏へ) SM耐性株はSPCTには耐性であったか？

(答) SPCTには感受性であった

(座長：伊佐山康郎) ではCEMのシンポジウムは以上で終りたい。

(事務局よりのおことわり) シンポジウムのIと同じ(P. 18参照)